

歯科口腔外科学

1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	2人（1人）
医員	3人
研修医	5人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	4人（0人）
研究生	10人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	2人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	31人

2 教官の異動状況

- 橋本 賢二（教授）（H1. 8. 1～現職）
 加藤 文度（助教授）（H14. 10. 1～現職）
 三浦 隆男（講師）（H12. 2. 1～現職）
 長田 哲次（講師）（H15. 3. 1～現職）
 鈴木 浩之（助手）（H14. 9. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10編（3編）
そのインパクトファクターの合計	26.47
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 五藤晃義, 村井睦彦, 大澤孝行, 増本一真, 式守道夫, 橋本賢二：口腔扁平上皮癌に対する TPP および TPF にドキタキセルを併用した化学療法の検討. 日口外誌48 (8) 386-389, 2002.
2. 大和田学, 式守道夫, 増本一真, 村井睦彦, 田中秀生, 福田廣志, 橋本賢二：当科における 外来患者の感染症の実態調査. 日口診誌15 (1) 31-34, 2002.
3. 橋本賢二, 山田一郎, 田中秀生, 村井睦彦, 増本一真, 山口万枝, 式守道夫：PDT 実施上の 問題点とその対策. 日レ歯誌13 (1) 5-10, 2002.
4. Katou F, Ohtani H, Nakayama T, Nagura H, Yoshie O, Motegi K: Differential expression of CCL IG by DC-Lamp mature dendritic cells in human lymph node versus chronically inflamed skin. Journal of pathology. 199: 98-106, 2003.
5. Koji Takagi, Kazue Yamaguchi, Takashi Skurai, Tetsuya Asari, Kenji Hashimoto, and Susumu Terakawa: Secretion of Saliva in X-Irradiated Rat Submandibular Glands. Radiation Research. 159 (3): 351-360, 2003.
6. Hiroki Toyoda, Koji Ohno, Junko Yamada, Masahiko Ikeda, Akihito Okabe, Kohji Sato, Kenji Hashimoto, Atsuo Fukuda: Induction of NMDA and GABAA Receptor-mediated Ca²⁺ Oscillations with KCC2 mRNA Downregulation in Injured Facial Motoneuron. Journal of Neurophysiol. 89: 1353-1362, 2003.

インパクトファクターの小計 [17.05]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Okabe A, Ohno K, Toyoda H, Yokokura M, Sato K, Fukuda A: Amygdala kindling induces upregulation of mRNA for NKCC1, a Na⁺, K⁺-2Cl⁻ cotransporter, in the rat piriform cortex. Neurosci. Res. 44 (2) 223-227, 2003.

インパクトファクターの小計 [1.77]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kitagawa Y, Hashimoto K, Enomoto S, Shioda S, Nojyo Y, Sano K: Maxillo facial deformity and change in the histochemical characteristics of the masseter muscle after unilateral sectioning of the facial nerve in growing rabbits: Acta Histochem Cytochem 35: 305-313, 2002.
2. Hieshima K, Ohtani H, Shibono M, Izawa D, Nakayama T, Kawasaki Y, Shiota M, Katou F, Saito T, Yoshie O: CCL28 has dual in mucosal immunity as a chemokine with broad-spectrum antimicrobial activity. Journal of Immunology. 170: 1452-1461, 2003.
3. Takayuki Ohsawa, Hiroshi Fukuda, Junko Kato, Kazue Yamaguchi and Kenji Hashimoto: A case of pleomorphic adenoma arose in heterotopic salivary gland of the submandibular region. The Bulletin of Kanagawa Dental College, 30, 111-113, 2002.

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hideo Tanaka, Hiroshi Fukuda, Eiji Kono, Kenji Hashimoto: Experimental study on iontophoresis for topical application of 5-aminolevulinic acid to the oral mucosa. International Congress Series. 1699: 1-5, 2002.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 村井睦彦：口腔外科処置とレーザー。デンタルダイヤモンド27 (9), 58-61, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 森脇真一, 星野優子, 山田知加, 高城倫子, 田中秀生：皮膚疾患治療のポイント；皮膚腫瘍に対するALA外用PDTの実際。臨床皮膚科 医学書院, 56 (5): 112-117, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 福田敦夫, 豊田博紀（分担）：障害性 K^+Cl^- cotransporter (KCC2) 発現減少による内在性GABA作動性興奮の出現と Ca^{2+} オシレーション, 145-151頁：赤池紀扶, 東 英穂, 阿部康二, 久保千春 編：脳機能の解明－生命科学の主流－, ガイア出版会, 2002.

2. Toru Hirano, Yasuo Hashimoto, Hideo Tanaka, Ichirou Yamada, Kenji Hashimoto: Interstitial Photodynamic Therapy with Moving Exposure Fiber. In: Armstrong D. eds. Methods in Molecular Biology, vol. 196. Humana Press Inc (NJ), 331-341, 2002.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 豊田博紀, 山口万枝, 木瀬尚子, 増本一真, 福田廣志, 橋本賢二: 口蓋に発生した基底細胞腺癌の一例. 日本口腔外科学会雑誌. 49 (2): 99-102, 2003.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 入佐弘介, 近藤壽郎, 大浦健宏, 高橋研太郎, 岸田 剛, 伊東隆利: 若年者に認められた両側性筋突起過形成症の1例 - 術前後の筋突起の形態的变化 -, 日口外誌48 (5): 292-295, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	0件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	2件 (1,060万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	3件 (100万円)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	1件	8件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	21件
(6) 一般演題発表数	7件	

(1) 国際会議等開催・参加：

4) 一般発表

口頭発表

1. Hideo Tanaka, Hiroshi Fukuda, Eiji Kohno, Yutaka Fujise, Kenji Hashimoto: Experimental Study on Iontophoresis for Topical Application of 5-aminolevulinic Acid to Oral Mucosa. The 8th International Congress on Lasers in Dentistry, Yokohama, 2002. 7. 31.
2. Toyoda H, Sato K, Okabe A, Shimizu-Okabe C, Yamada J, Hashimoto K, Fukuda A. (2002) Differential expressions of KCC1, KCC2 and NKCC1 mRNAs in the rat trigeminal nuclei. 32th Annual Meeting, Society for Neuroscience, Orlando, 2002. 11. 2-7.
3. Ikeda M, Toyoda H, Okabe A, Sato K, Hotta Y, Fukuda A. (2002) Differential developmental profile of the cation-Cl⁻ cotransporter expression and Cl⁻ homeostasis contribute to differential GABAergic actions in rat dorsal lateral geniculate nucleus and visual cortex. 32th Annual Meeting, Society for Neuroscience, Orlando, 2002. 11. 2-7.
4. Yamada J, Okabe A, Toyoda H, Fukuda A. (2002) Development of Gabaergic Responses and CL- Homeostasis are Regulated by Differential Expression of Cation-CL⁻ Cotransporters: Gramicidin-Perforated Patch-Clamp and Single Cell Multiplex RT-PCR Study. 32th Annual Meeting, Society for Neuroscience, Orlando, 2002. 11. 2-7.

ポスター発表

1. Okabe, A, Toyoda H, Yokokura, M, Yamada, J, Shimizu-Okabe, C, and Fukuda, A. Expressional changes in the Cl⁻ homeostasis-related genes in the rat brain after amygdala kindling. Poster presentation, The Third International Symposium on the Study of Brain Function, Fukuoka 2002. 5. 9-10.
2. Yamada J, Okabe A, Toyoda H, and Fukuda A. The developmental change in GABA receptor-mediated responses in the rat neocortical neurons demonstrated by gramicidin-perforated patch-clamp recordings and single cell RT-PCR. Poster presentation, The Third International Symposium on the Study of Brain Function, Fukuoka, 2002. 5. 9-10.
3. Fukuda A, Toyoda H, Ohno K, Okabe A, Ikeda M, Yamada J, Sato K. (2002) Calcium oscillations in axotomized facial motoneurons are attributable to GABAergic excitation caused by intracellular chloride increases following K-Cl cotransporter (KCC2) downregulation. The 3rd Forum of European Neuroscience, Paris 2002. 7. 13-17. (3rd FORUM of EUROPEAN NEUROSCIENCE p. 364 FENS Forum Abstracts 146. 4 Poster p156)

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

1. 橋本賢二, 山田一郎, 田中秀生. 浜松医科大学におけるPDTの治療と管理について。～PDTの基礎から臨床まで～。第24回日本光医学・光生物学会シンポジウム。

3) 座長をした学会名

- 橋本賢二 第34回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会
- 橋本賢二 第12回国際光線力学学会日本支部研究会
- 橋本賢二 第4回日本口腔顎顔面外傷学会
- 橋本賢二 第12回日本顎変形症学会総会
- 橋本賢二 第12回日本有病者歯科医療学会総会
- 橋本賢二 第56回日本口腔科学会総会
- 橋本賢二 第27回日本口腔外科学会中部地方会
- 橋本賢二 第47回日本口腔外科学会総会
- 橋本賢二 第8回国際レーザー歯学会

5) 役職についている学会名とその役割

- 橋本賢二 日本歯科薬物療法学会 評議員
- 橋本賢二 日本有病者歯科医療学会 評議員
- 橋本賢二 日本顎変形症学会 評議員 編集委員長
- 橋本賢二 日本顎顔面補綴学会 評議員
- 橋本賢二 日本口腔外科学会 評議員
- 橋本賢二 日本レーザー医学会 評議員 理事
- 橋本賢二 日本レーザー歯学会 評議員 理事 編集委員長
- 橋本賢二 日本小児口腔外科学会 評議員 理事
- 橋本賢二 口腔病学会 評議員
- 橋本賢二 日本口腔腫瘍学会 評議員
- 橋本賢二 日本臨床電子顕微鏡学会 評議員
- 橋本賢二 日本口腔粘膜疾患学会 評議員
- 橋本賢二 日本咀嚼学会 評議員
- 橋本賢二 日本頭頸部腫瘍学会 評議員
- 橋本賢二 日本口腔科学会 評議員
- 橋本賢二 日本口腔顎顔面外傷学会 評議員 理事長
- 橋本賢二 横浜口腔顎顔面外科学会 評議員 理事
- 橋本賢二 日本口腔インプラント学会 評議員
- 橋本賢二 日本顎関節学会 評議員
- 橋本賢二 静岡県口腔インプラント研究会 顧問
- 橋本賢二 東海頭蓋顎顔面人工材料研究会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	3件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. HpD・エキシマダイレーザーを用いたPDTの臨床応用（学内共同研究）

目的：本法は表在性の口腔癌・口腔前癌病変に有効なことが判ったので、さらに進行した癌に対して組織内回転照射式PDTの臨床応用を実用化することを目的とする。

概要：深部に浸透した癌組織の中にマイクロセレクトロンチューブを刺入し、そのチューブのなかにファイバーを通し回転させながら内部からレーザー光を照射するPDTの開発。

目的の達成度：進行舌癌4例に実施し、3例で著効、1例は深部の照射不足で再発。症例を増やし、「高度先進医療」を申請する予定。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 進行舌癌に対する組織内回転照射式PDTの開発（学内共同研究）

本法により、従来表面照射の場合光の深達度から表面より7-8mmとされていたPDTがより深部まで浸潤した癌にも適応できることが分かり、組織内刺入法や照射法などの改良により、適用部位や臓器などが拡大でき、機能と形態が温存できるPDTの臨床応用の可能性が広がった。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 近紫外線励起固有蛍光を用いた癌の診断（科学研究費）

研究の独創性：近年光感受性薬剤を用いた診断（PDD：Photo Dynamic Diagnosis）はいろいろな施設で行われるようになってきたが、薬剤を用いない自家蛍光を利用する研究は、現在国内・外を問わず行われていない独創的な研究である。これらの研究はCancerに掲載されており、国際的にも認知されたものと考えている。今後、ポルフィリンと癌の関係を継続して検討することにより、臨床各科での応用も可能となり、幅広く活用されるものと考えられる。

2. 進行癌に対する組織内刺入回転照射式PDTの開発（学内共同研究）

PDTは光感受性薬剤を静脈注射後、48-72時間後にレーザー光を患部に照射する癌の治療法であるが、光の組織深達度から照射表面より7-8mmが治療の限界とされていたが、臨床で取り扱う癌

は進行したものが多く現状のPDTでは適応が限られること、PDTの形態と機能を温存できるという特徴を活かすのであれば、進行癌も適応となるような新しいPDTの方法を確率する必要があることなどから、動物実験での成果をふまえ、臨床応用できるように本学の倫理委員会に諮り、組織内刺入回転照射式PDTを臨床応用し良好な結果を得ている。国内では、組織内照射はまだ研究段階であるが、海外ではいろいろと試みられており、注射針などを刺入し中にファイバーを通し照射する方法が中心で、本法のようにファイバーを回転させ全周に渡り万遍なく照射する方法は未だ行われていない。ファイバーの刺入法に改良の余地があり、この問題を解決できれば、舌以外に腭・肝臓・前立腺などの実質臓器の悪性腫瘍に幅広く利用でき、応用範囲は飛躍的に広がるものと思われる。

15 新聞、雑誌等による報道